



令和6年5月16日

杉戸町議会議長
伊藤 美佐子 様

公明党
議席番号14番 平川 忠良

政務活動結果報告書

下記の通り、研修会に参加しましたので、報告いたします。

1. 研修日:令和6年4月25日(木) 13:30～16:30

2. 目的・場所・講師

「ペット版HUG体験会」

会場:久喜市中央コミュニティーセンター

講師:谷茂岡 良佳(やもおか りょうか)

愛玩動物看護師、(一社)ひとtoペット 副理事長、動物支援ナース

3. 研修内容

最初に、ペット防災について講習を受講。災害発生時、ペットと一緒に同行避難。

避難先は避難所とは限らないが、ゲージに入れるためのトレーニングや呼んだら来るようなしつけが大事であることを学びました。

講習終了後、体験会を開始。1テーブル6人単位で3テーブルに分かれて、静岡県が開発した「避難所運営ゲーム(HUG)」を最初に体験し、引き続き、NPO法人ペット防災サポート協会が開発した「ペット版HUG」を体験し、避難所運営の疑似体験を行いました。

4. 調査結果(提言)

- ・地域防災計画で獣医師会との災害協定や協力を求めるよう推進すること。
- ・改めて自主防災組織に働きかけを行い、各小学校校区に(避難所ごとに)「避難所運営ゲーム(HUG)」を体験し、各避難所の運営マニュアルの

作成を進めること。事前に運営体制や役割、避難者の部屋割り等、決めておく必要がある。

- ・町としてペットの飼い主を対象に、ペット防災に特化した研修を実施すること。
- ・町として「ペット版HUG」の体験会の実施を推進すること。また、避難所ではペット受付を別で用意し、対応策として専門家の配置を検討すること。



令和6年11月11日

杉戸町会議議長
伊藤 美佐子 様

公明党
議席番号14番 平川 忠良

政務活動結果報告書

下記の通り、視察を行いましたので、報告いたします。

1. 視察日:令和6年10月28日(月)～10月29日(火)の2日間

2. 目的・場所

(1) 10月28日(月)

愛知県阿久比町 「住家被害認定調査訓練とDX活用について」

(2) 10月29日(火)

三重県桑名市 「コラボ・ラボ桑名について」

三重県鈴鹿市 「男女共同参画推進の取り組みについて」

3. 視察内容

(1) 愛知県阿久比町 「住家被害認定調査訓練とDX活用について」

- ・住家被害認定調査訓練と罹災証明迅速化ソリューションを活用した対策
- ・高い防災性を確保した防災をシンボルとしての新庁舎と庁舎機能体制等

①愛知県阿久比町の概要

愛知県阿久比町は、知多半島のほぼ中央に位置し、狭い半島内にありながら海岸線をもっていません。人口約2万8千人、面積23.8平方キロメートルで、気候は平均夏期で28.2℃、冬期で4.7℃、年中を通して温暖であり、降雪はほとんどみられません。

②事業概要

1. 住家被害認定調査訓練と罹災証明迅速化ソリューションを活用した対策
平成12年の東海豪雨で200世帯以上の床上・床下浸水被害が発生、南海トラフ地震の警戒感も高まり、職員一人ひとりが防災担当という意

識をもっています。平成25年の災害対策基本法改正に伴い、罹災証明証を遅滞なく交付することが、義務として位置づけられました。

罹災証明証発行するために、住家被害認定調査が必要です。

税務課職員が全員、住家被害認定士の資格保持者で、令和3年度から住家被害認定調査訓練を行ってきました。最初はアナログ方式でしたが、令和5年度からは、「富士フィルムシステムサービス(株)」のタブレット端末による罹災証明迅速化ソリューションを導入、現地での場所入力、目視での判定入力、建物の写真撮影等行うだけ、帰庁後の作業はなし。工数や期間が50%削減されたそうです。

視察では、タブレット端末での体験を行いました。

2. 高い防災性を確保した防災をシンボルとしての新庁舎と庁舎機能体制

【経過】

平成24年1月 基本構想策定

平成25年3月 基本設計終了

平成26年3月 実施設計終了

平成26年6月～平成29年3月 新庁舎全体建設工期

【施設概要】

全体（庁舎棟・多目的ホール棟・食堂棟・倉庫棟）

主な建物

庁舎棟：5829.41㎡、鉄筋コンクリート 地上4階建て
免震構造

多目的ホール棟：1615.28㎡ 鉄筋コンクリート
地上2階建て

食堂棟：230.56㎡ 鉄筋コンクリート 平屋建て

【費用】

全体 47億3002万5千円

（庁舎棟 40億5924万3720円）

【高い防災性を確保した防災をシンボルとしての新庁舎】

- 新庁舎は、巨大地震に対応した免震構造
- 災害対策本部室を2階に配置
- 多目的ホールは耐震グレードⅠ類とし、全体を床段差のない一時避難所と活用、新庁舎前のみんなの広場を防災広場、隣接する食堂棟は炊き出しが行えます。
- 浸水に備えて、電気室、非常用発電機等は上層部へ配置

③調査結果（提言）

- ・住家被害認定調査訓練の実施
- ・税務課職員の住家被害認定士の資格取得の推進
- ・罹災証明書発行までの体制づくりの確立
- ・新庁舎は、巨大地震に対応した免震構造にすること
- ・新庁舎に災害対策本部室を配置
- ・新庁舎は浸水に備えて、電気室、非常用発電機等は上層部へ配置

（２）三重県桑名市 「コラボ・ラボ桑名について」

全庁上げて取り組む官民連携の推進、民間事業者からの提案を積極的に取り入れる一括窓口について

①三重県桑名市の概要

人口約１４万人、面積１３６．６５㎢、三重県北部に位置し、名古屋から電車で約２０分ＪＲなど４路線が通り、高速道路インターチェンジが５か所名古屋市内まで車で約３０分、名古屋圏の住宅都市として発展しました。年間１５００万人が訪れる複合リゾート施設「ナガシマリゾート」、食では、はまぐりが有名です。

②視察概要

公民連携ワンストップ対話窓口「コラボ・ラボ桑名」の取り組みについて

【背景】

平成１２年から少子高齢化が進行、大規模改修時期をむかえる公共施設・築３１年以上は全体の６０％、経常収支比率平成２６年度９９．７％と財政的に危機的な状況となりました。

【公民連携の歴史】

平成２７年 公民連携専門部署を創設、研究のため、職員が東洋大学へ

平成２８年 民間提案窓口「コラボ・ラボ桑名」開設

令和元年 新フリー型提案制度開始 随意契約導入

【内容】

- ・コラボ・ラボ：「公」と「民」の連携（コラボ）を研究する研究所を意味。
- ・職員４名体制でＰＸの推進、重要施策の調整・実行、公民連携による事業の推進。
- ・主な提案募集 ①テーマ型提案 ②フリー型提案 ③サウンディ

ング型市場調査 ④包括連携協定

- ・民間から提案いただいた事項について、有識者2名をいれた市内検討委員会で検討、決定します。

【主な実績】 令和5年度 提案90件 実現22件
経済収支比率R3年 85.8%

①市役所駐車場の有効活用

課題（活用前）維持管理年間400万円 収入150万円
250万円の赤字



サウンディング型市場調査 提案2事業者
プロポーザル実施 タイムズ 決定



（活用後）維持管理が不要、稼働率アップ、
貸付料年間480万円 赤字解消

②汚水処理施設のサウンディング型市場調査

概要 閉鎖後も年間120万円の維持管理
解体費用：約4,7億円



建物付きで購入の提案
民間事業者による解体条件で入札



約5000万円で売却
宅地で分譲開始

③未利用地をコンビニで貸付 維持管理15万円の削減、
賃料年384万円確保

④健康増進施設「神馬の湯」 年間35万人利用

公設公営 → 民設民営 土地貸付収入486万7千円×30年間
入湯税 年間約1200万円

⑤多世代型共生施設「桑名福祉ヴィレッジ」

桑名市社会福祉協議会が複合型共生福祉施設を提案

（母子生活支援施設、養護老人ホーム、保育所、児童発達支援センター、生活介護事業所）



桑名市がプロポーザルを実施

施設管運営の社会福祉協議会とで土地賃借契約
施設整備事業者と公園整備委託契約
社会福祉協議会と施設整備事業者とで施設整備請負契約

③調査結果（提言）

- ・ 公民連携専門部署を創設し、民間からの提案を受け入れる体制を

（３）三重県鈴鹿市 「男女共同参画推進の取り組みについて」

審議会等における女性登用の推進、鈴鹿市地域防災会議の委員の女性比
４０％推進による効果等

①三重県鈴鹿市の概要

人口約１９万５千人、面積１９４．４６㎢、三重県中北部に位置し、本田
技研工業の鈴鹿製作所があり、関連の自動車部品工場が多くあります。また、
世界的にも有名な日本有数のレーシングコースである鈴鹿サーキットがあ
り、日本のモータースポーツの聖地とも言われています

②視察概要：視察会場は、鈴鹿市男女共同参画センター「ジェフリーすずか」

１．男女共同参画推進の取り組み

【取り組みの歴史】

平成７年 鈴鹿市女性問題懇話会設置
平成９年 鈴鹿市男女共同参画プラン策定
平成１４年 鈴鹿市男女共同参画センター会館
平成１８年 鈴鹿市男女共同参画推進条例制定
平成２２年 第１次鈴鹿市男女共同参画基本計画策定
平成２４年 鈴鹿市男女共同参画都市宣言（センター会館１０周年）
平成２８年 第２次鈴鹿市男女共同参画基本計画策定
令和６年 第３次鈴鹿市男女共同参画基本計画策定

【審議会等における女性登用の推進】

５０審議会等における女性登用率

平成２２年２６％ 令和６年４３．７％ （全国 第５位）

※ 女性管理職登用率（課長級以上） ２２％

２．鈴鹿市地域防災会議の委員の女性比４０％推進による効果

５５名中２２名が女性 → あて職の限定せず、適任とされる女性の
推薦を依頼
災害の応急対策における幅広い分野や
学識経験者を登用

鈴鹿市総合防災マップの改正

防災における女性が参画した成果として、

- ・ 防災備蓄品・非常用持ち出し品リスト

女性用品、妊産婦、乳幼児用品、子育て世帯お役立ちアイテム

- ・ 避難所での防犯対策

- ・ 体育館を避難所にした場合のレイアウト

おむつ交換スペース、授乳スペース、女性更衣室等

③調査結果（提言）

- ・ 審議会等における女性登用の推進 → 杉戸町プランの令和7年度40%以上達成
- ・ 鈴鹿市総合防災マップのような、保存版冊子の作成
- ・ 地域防災会議の委員の女性比率の推進と女性委員の声を反映した地域防災計画の改正